

# I ま え が き

平成30年度の一般会計決算額は、歳入総額が7,153億1,600万円、歳出総額が7,128億9,200万円となり、歳入・歳出とも増となりました。

歳入総額については、前年度決算額と比較すると2.1%の増となっています。

これは、スポーツ・文化総合センターの取得完了による市債の減の一方で、県費負担教職員の市費移管に伴う税源移譲分の交付金からの移行等による市税の増などがあつたことによるものです。

歳出総額については、前年度決算額と比較すると2.2%の増となりました。

これは、スポーツ・文化総合センターの取得完了による市民文化費の減の一方で、民間保育所運営費の増によるこども未来費の増、羽田連絡道路整備事業費の増による建設緑政費の増などによるものです。

また、歳入歳出差引額から、令和元年度への繰越事業に充当する繰越財源を差し引いた実質収支額、いわゆる剰余金は1億9,200万円となりました。

市税収入については、個人市民税における県費負担教職員の市費移管に伴う税源移譲分の交付金からの移行や納税者数及び所得の増、固定資産税における土地の評価替えなどにより、6年連続の増収で5年連続の過去最高となりましたが、社会保障や防災・減災対策、都市機能の充実など、将来も見据えて乗り越えなければならない課題に的確に対応するため、減債基金からの133億円の新規借入を行いました。これにより、借入の累計は432億円となっており、引き続き厳しい財政状況となっています。

このような状況においても、多様化する課題への的確な対応など、必要な施策・事業の着実な推進と、財政の健全化による持続可能な行財政基盤の構築の両立に向けた財政運営を進めてまいります。

以下、平成30年度決算のあらまし、並びに、令和元年度上半期予算執行のあらましについてご説明いたします。